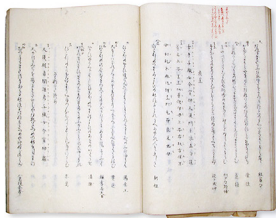
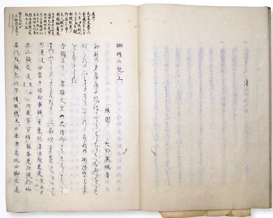


## 『棚機の記』



函架番号E-91。写本2巻1冊。縦27.2cm×横18.8cm。袋綴。62丁。1面10行。楮紙。萌黄色檀紙の表紙。外題（題簽左肩）「棚機の記上下」。表紙右肩「歳時」の朱陽丸印の左に「大野廣城著」、右下に貼紙「珍本」。第1丁表に「黒川真頼藏書」「黒川真頼」「黒川真道藏書」、見返等に「ノートルダム清心女子大学図書之印」の朱陽印。朱書入。奥書「文政十一年<sup>(注1)</sup>子六月十五日草稿畢」。

七夕に関する年中行事書である。上巻には、乞巧<sup>きこう</sup>の儀の次第と調度や供物の作法の記録を日記や有職故実書等から蒐集し、また、二星・天川・鳥鵲橋等の言説を物語や歌書等から引く。下巻には、「彦星」

「たなばたつめ」等の題で古歌を集成する。

著者の大野広城（天明8年（1788）-天保12年（1841））は、江戸生まれの幕臣で国学者。史書や法制書などの編著がある。殿中の諸事に係る著「殿居<sup>とのい</sup>囊<sup>ふろ</sup>」（天保8年・同10年刊）・「青標紙<sup>あおびらし</sup>」（天保11年・同12年刊）が幕府の忌諱に触れたことにより、丹波国綾部藩九鬼家に預けられ、幽閉中に没した<sup>(注2)</sup>。

本作は写本のみ伝存し、他に静嘉堂文庫蔵本、田安家旧蔵の内閣文庫蔵本がある。本文の微細な異同のほか、本学黒川文庫蔵本と静嘉堂文庫蔵本には固有の頭注・補筆が見られる。

(注1) 1828。(注2) 「国学者伝記集成」等に拠る。